

# 日本をキリストへ 協力

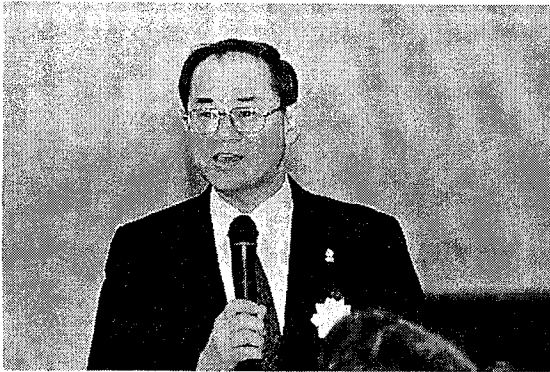
「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)

## 新しい力

総動員伝道委員長

姫井雅夫



「激動の二十世紀」とよく言われます。確かに多くの戦争があり、社会的にも世界大にいろいろな面で多くの変化が起こった世紀であったと思います。医学を初め、科学、工学、とにかくあらゆる文化面で目覚ましい発展を遂げた世紀が二十世紀でした。

キリスト教界にとっても世界宣教が著しく進展し、聖書の翻訳を見ても六八〇九言語が世界にあるそうですが、

二二三三言語には聖書が翻訳されています。(旧新全部 三七一言語、新約のみ 九六〇言語、分冊 九〇二言語) I T革命によって翻訳のスピードは加速度的に速まっております。二〇〇五年にはすべての言語に訳される(目標)のだそうです。リバイバルが世界の各地で起こり、その勢いが「第三世界」と言われている地域にもすごい勢いで広がっていると耳にしています。

さて、日本に目を転じてみると、同じように勢いよく宣教の業が繰り広げられてきた時があり、聖書の翻訳も幾つもの訳が出ており、電波の活用によって隅々にまで福音の宣教がなされてきました。

ところが二十一世紀に入った今、牧師が集まって話す内容はなんと沈んでいくように感じられるのです。大きなホールで幾日ももわたる宣教大会をしたり、海外から多くの有名な講師を迎えて集会をしたり、いろいろとやってみたものの、果たしてどの様な成果があったのだろうか、と虚しさに近いような気分が日本全体を覆っているような気がいたします。教会数の伸びも頭打ち、洗礼を受ける人の数も伸びない、無牧の教会が増え、新しい献身者が少ない。どこをとっても暗い話ばかり。キリスト教界の中には教会だけでなく、私たち「伝道団体」も含まれています。

それはキリスト教界だけでなく、社会全般に言える事のようにです。経済は不況続き、政治は詐欺と議員同士の馴れ合い、家庭は崩壊、倫理は地に落ち、まさに黒雲に覆われている日本、という気がいたします。

さて、そこで、「主を待ち望む者は新しい力を得」(イザヤ四十二・三十一)「わたしの前で静まれ。諸国の民よ。新しい力を得よ」(イザヤ四十一・一二)という聖書の言葉を思い起こすのです。疲れきった感じのする現在、また何かをするのかとなると「うんざりだ」と言う反応が返ってきてきそうなのがします。でもこの状況を打破するには「新しい力」が必要です。そこで求められていることは「主を待ち望む」「わたしの前で静まれ」と言うことではないでしょうか。今はじっと我慢の時。静かにして主を待ち望みましょう。新しい力が与えられます。

# 2001年度総会の公示

日 時：4月10日（火）午後2時～4時半

場 所：お茶の水クリスチャンセンター415会議室

議 題：2000年度活動・会計決算報告

2001年度活動計画・会計予算案

その他

懇談会：1泊研修会について

その他

※総会の出欠葉書といっしょに、研修会、伝団協についてのご要望、ご意見を是非お寄せ下さい。

## 伝団協情報交換会報告

日本をキリストへを合言葉のように、主から託された各種の伝道団体が手を携えてスタートした伝道団体連絡協議会の活動も十七年が過ぎた。二十一世紀を迎えて最初の情報交換会が二月一日午後二時からお茶の水クリスチャンセンターOCC四一五で開催された。

第一部礼拝。まず、姫井雅夫役員の司会のもと「主よ、導きの手をのべたまえ」を賛美し、続いて村上宣道会長が立ってイザヤ書四十三章十四～二十一節よりメッセージを行なった。「新しい年、新しい世紀、ニューミレニアムという画期的な時を迎えて、何か新しいことを考え、期待し、しようとするが、伝道者の書は、非常にクールに、日の下に新しいことは一つもない」という。そうした中で本場に新しいと言うことができ、新しいことをすることが出来る方が、無から有を生みだしてくださる創造者なる神だけである。私たちの信じている神は、日の下に、何一つ新しいものがない、作れるはずがない、生まれるはずがないという中で、見よ、新しいことをする。とおっしゃる方である。

今日の日本のキリスト教会を見ると、荒野、荒地、どうなってしまうのかと思わされる。新しい世紀を迎えても希望が持てない不毛の状況である。しかし神は、そうした状況の荒野に道をつくり、荒地地に川を設け、新しいことをなさる方である。このお方を信じ、期待して、手を携えて進ませていただきたい。」一同新たなチャレンジを受け、岸田副会長の祈りをもって礼拝を閉じる。

第二部は、OCC用意のお汁粉をおいしくいただきながら楽しい交わりの時を持った。

第三部が情報交換会である。伝団協所属団体は五十近くあるが、参加したのは十九団体と少々残念であったが、各々の活動・祈祷課題などの情報交換がなされた。（伝団協情報交換会議事録参照）

主なものは、新年度の活動計画や二十一世紀を迎えての伝道プラン、二〇〇二年に日韓両国を会場に開催されるサッカーのワールドカップにおける証・伝道、また多くの団体から経済面で厳しい現状が訴えられた。そうした中にも創立五十周年を迎える感謝と同時に世代交代の課題があげられるなど、各団体各々の状況を知ることができた。

続いて第四部は少人数に分かれての祈り会である。これまでに報告を踏まえながら互いの働きについて祈り合う幸いな時であった。

最後に「信仰こそ旅路を導く杖」を賛美し、北條和人の祈りをもって、午後四時三十分終了した。

### 〈参加団体名〉

いのちのことば社、日本キリスト伝道会、日本キヤンバスクルセードフォークライストJCCC、ユースウイズアミッション、ブリッジフォーピース、ジャパンBFPJ、国際ナビゲーター、高校生聖書伝道協会hiba、教会インフォメーションサービスCIS、総動員伝道、日本福音クルセード、日本伝道者協力会、クリスチャン新聞、ミクナムレコード、内外盲人ミッション、太平洋放送協会PBA、お茶の水クリスチャンセンターOCC、日本聖書協会、(オブザーバー) スポーツアウトリーチジャパン、サマリタンゴスベルミッション

## 伝道団体紹介

キリストとの出会いを願って

財団法人 太平洋放送協会 (PBA)



財団法人 太平洋放送協会 (Pacific Broadcasting Association) は、一九五一年に創立以来五十年間、電波を通してすべての人々に福音を伝え続けていく伝道団体です。

デジタル多チャンネル・ネットワーク時代を迎え、スピード化し多様化する中で、PBAは、時代に即したメディアを用い、人々の心に届く番組作りと一人を大切にしたフォロアアップを目標に、全国の諸教会、賛助会員と各地の協力会とより緊密なチームワークをもって、二十一世紀もメディア伝道に励んで参ります。

現在、PBAの番組はラジオ「世の光」(国内二十四局)、テレビ「ライフ・ライン」(国内十二局)、短波放送「太平洋の声」(グアム)、インターネットで視聴できます。

これからも、CS、BS、CATV等、変化に富んだ時代のニーズに対応した番組作りやフォロアアップを目指し、多くの人々がキリストに出会っていたることを願って取り組んで参ります。



財団法人 太平洋放送協会 (PBA)

〒101-0061  
東京都千代田区神田駿河台1-1-1000ビル  
TEL 03-3133-9549 21-33  
FAX 03-3133-2650  
E-mail: pba@path.ne.jp  
http://www.pba-net.com

## 新レーベルの誕生

ミクタムレコード株式会社

新世紀である二〇〇一年、ミクタムレコードでは念願だった新レーベル「WILL」の立ち上げを実施する事になりました。クリスチャンアーティストの育成のためにも、良い作品を世に出したい、またその働きの応援をしたいとの思いが実を結び、ようやく時を得て新レーベルの誕生となりました。

ミクタムは「賛美をもって主に仕える」という使命を頂き、小坂忠・高叡華夫妻によって一九七八年設立され、以来今日まで多くのクリスチャンアーティストを育て、教会の賛美の向上の為に力を尽くしてまいりました。その二十三年間の実績とスタッフの能力を、新しい可能性を持った人々に提供し、今こそ伝道のとぎと

して彼らが外に出て行けるよう、音楽宣教の働きを助けたいと願っています。

具体的な活動としてはプロダクション・ワーク(レコーディング・CD制作の技術協力) デイストリビューション・ワーク(販売) プロモーション・ワーク(宣伝) をトータルに応援していきます。中でも、制作の段階から一緒に取り組むプロダクション・ワークの面はWILLの最大の特徴です。更に良い作品は一般レコードマーケットにも紹介する予定です。

目標に向かい励むことは、スキルアップへとつながります。そのために、神様から与えられている大きな使命に込めたいこうという厳しさをもちことも重要です。このレーベルが賛美活動を目指す彼らのための希望のレーベルとして、一つの目標となり、クリスチャンミュージックの向上とアーティストの育成、登竜門となることを願っています。

ミクタムレコード株式会社

住所：〒160-0001  
東京都新宿区片町一番地ダイアビル4F  
TEL 03-3333-5810 891  
FAX 03-3333-5811 218  
E-mail: info@michtam.com  
http://www.michtam.com/

<WILLの意味>

「可能性」

「確信」「期待」

「意思」「願望」

マークには、主にハレルヤ!と賛美する兄弟姉妹のガンバル姿勢に期待し、音楽宣教の希望が込められています。

**WILL**  
MIGHTAM

●二十世紀E F Jでは、様々な賜物をもって福音を伝え、教会を建て上げる働きに献身しておられる方々を広くその交わりに受け入れ励まし合っていくことになりました。

(日本伝道者協力会・E F J)

●大学生伝道から将来のリーダーを育てる働きとしてこの夏もS I J(米国から伝道チーム来日)を計画。また、社会人を中心に信徒リーダー育成のための学び会や研修会をもって

(国際ナビゲーター)

●クリスマスには、J E S U Sの全国二十八局でのTV放映、東京圏の主要鉄道車内広告、ホームページなどを通して人々にJ E S U Sを印象付けました。

(日本キャンパスクルセード)

●新コースがスタート!「ACTSies」(英語を話す留学生対象)、「日本宣教コース」(日本宣教を志す留学生対象)両コースとも奨学金制度あり。

(東京基督教大学)

●新年度の計画のためお祈りください。学生の国外研修(七月末、フィリピン)、医科系聖研(八月上旬、新潟)、シンポジウム(九月十五

日、関西でメンタルヘルス、十月八日、関東で福祉)

(福音主義医療関係者協議会・E M F)

●昨年三十周年を期に姫井雅夫師が委員長に就任、新体制となった。テキストを改訂し、教会の方々に充分に用いていただくことを期待している。未だ総動員伝道の行われていない三重、千葉、北海道南部にアタックしようとしている。

(総動員伝道)

●創立五十周年を迎え、全国縦断伝道ゼミ・感謝会、伝道ラリーを開催。二十一世紀のデジタル・ネット時代に対応した番組制作のための新スタジオ・諸設備およびスタッフを求めている。

(太平洋放送協会・P B A)

●今年の日本伝道の幻を語る会は、八月二十、二十二日、テーマを「二十一世紀の日本伝道と教育」とし、講師に小助川次雄牧師、大阪女学院長西村耕氏を迎え開催する。また国際交流をテーマに二月台湾、九月にはシカゴで集会を開催する。今年の集中伝道は秋田県で行う。

(日本キリスト伝道会)

●イスラエルを祝福する者は祝福される。この

みことばを信じ活動している。昨年、イスラエルから国際ディレクターのワグナー師が初来日、東京、大阪、沖縄、北海道で祝された集会が持たれ、各地にハイナイト(祈りの会)が持たれるようになった。

(B・F・P・ジャパン)

●高校生伝道に携わって五十年目を迎える。東京十七、関西五つの伝道拠点を中心に毎週定期集会を持ち活動、春夏冬の各休みに

(高校生聖書伝道協会・h i l b a)

●教会・クリスチャン向けの伝道書籍・用品とともに、引き続き九十九%の未信者向けへの伝道書籍・用品等の製作、販売を強化している。

(いのちのことば社)

発行日 二〇〇一年四月

発行者 村上宣道

編集者 萩生田充